10月 学校だより

渡子小学校
平成２１年10月１日

校長　長江留理子

１０月（神無月（かんなづき））

この月の異名を「神無月」というのは，日本中の神様が出雲に出かけるから・・という話はよく知られています。反対に出雲地方だけはこの月を「神在月（かみありづき）」と呼ぶのだそうです。この頃は全国のいたる所で秋の収穫を祝うお祭りが行われますが，日本の行事やお祭りの多くが，田植えから収穫という稲のサイクルに関連しています。穀物は，今も昔も私達人間にとって，なくてはならない大切な食べ物です。１０月は，穀物の実りを神と自然に感謝する月でもあります。今月もよろしくお願いいたします。

実るほど　頭をたれる　稲穂かな

春に田植えをした稲も１０月になると，稲穂がたわわに実り，黄金色に色づきます。その黄金色の稲が秋のさわやかな風に吹かれ，波打っています。「実るほど　頭をたれる　稲穂かな」といわれるように，十分に実り，黄金色に色づいた稲穂は，自然に頭が下がってきます。

このことはちょうど，稲穂が自分がここまで成長できたのも，茎や根が自分を支え，養分を送り届けてくれたことに対する感謝の気持ちを表しているように思えます。

また，それを人間の生き方に置き換えてみると，子どもが一人前の大人になるまでには，両親をはじめ，多くの人々の様々な支援があって，

やっと一人前の大人になれるということを表しているようです。

決して自分一人で大人になったなどという気持ちを

もってはならないということを教えてくれます。

